

【公報種別】特許法第17条の2の規定による補正の掲載

【部門区分】第3部門第2区分

【発行日】平成27年11月26日(2015.11.26)

【公表番号】特表2012-515730(P2012-515730A)

【公表日】平成24年7月12日(2012.7.12)

【年通号数】公開・登録公報2012-027

【出願番号】特願2011-546611(P2011-546611)

【国際特許分類】

C 07 C	15/38	(2006.01)
C 07 C	211/61	(2006.01)
C 09 K	11/06	(2006.01)
C 07 D	235/08	(2006.01)
C 08 G	61/00	(2006.01)
H 01 L	51/50	(2006.01)
C 07 C	2/82	(2006.01)
C 07 C	209/06	(2006.01)

【F I】

C 07 C	15/38	C S P
C 07 C	211/61	
C 09 K	11/06	6 1 0
C 09 K	11/06	6 2 0
C 09 K	11/06	6 5 0
C 09 K	11/06	6 4 0
C 09 K	11/06	6 5 5
C 09 K	11/06	6 4 5
C 09 K	11/06	6 9 0
C 09 K	11/06	6 8 0
C 07 D	235/08	
C 08 G	61/00	
H 05 B	33/14	B
H 05 B	33/22	D
H 05 B	33/22	B
C 07 C	2/82	
C 07 C	209/06	

【誤訳訂正書】

【提出日】平成27年10月7日(2015.10.7)

【誤訳訂正1】

【訂正対象書類名】特許請求の範囲

【訂正対象項目名】全文

【訂正方法】変更

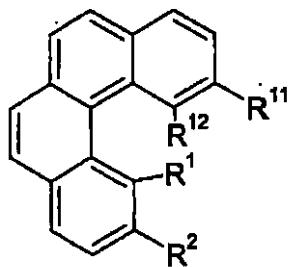
【訂正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項1】

使用される記号は以下の意味を有している式(Ⅴ)の化合物であって:

【化1】



式(V)

R¹ 及び R¹⁻² は、H 又は D 原子であり；

R¹⁻³ は、出現毎に、同じであるか又は異なっており、H、D、F、Cl、Br、I、CHO、N(R¹⁻⁴)₂、CN、NO₂、Si(R¹⁻⁴)₃、B(OR¹⁻⁴)₂、OSO₂R¹⁻⁴、1~40のC原子を有する直鎖状アルキル、アルケニル、アルコキシ及びチオアルコキシ基、3~40のC原子を有する分枝状の又は単環もしくは多環式アルキル、アルケニル、アルコキシ及びチオアルコキシ基であって、それらの各々は、1以上の基R¹⁻⁴により置換されていてもよく、それらの各々において、1以上の非隣接CH₂基は、R¹⁻⁴C=CR¹⁻⁴、C=C、Si(R¹⁻⁴)₂、Ge(R¹⁻⁴)₂、Sn(R¹⁻⁴)₂、C=O、C=S、C=Se、C=NR¹⁻⁴、P(=O)(R¹⁻⁴)、SO、SO₂、NR¹⁻⁴、O、S又はCONR¹⁻⁴により置き換えられていてもよく、また、それらの各々において、1以上のH原子は、D、F、Cl、Br、I、CN又はNO₂により置き換えられていてもよく、又は5~40の芳香環原子を有する芳香族又は芳香族複素環系であって、各々の場合、1以上の基R¹⁻⁴により置換されていてもよく、又は5~40の芳香環原子を有するアリールオキシ又はヘテロアリールオキシ基であって、1以上の基R¹⁻⁴により置換されていてもよく；

R¹⁻⁴ は、出現毎に、同じであるか又は異なっており、H及び1~20の炭素原子を有する脂肪族炭化水素基であって、当該脂肪族炭化水素基の1以上のH原子は、Fにより置き換えられていてもよいものからなる群より選択され：

R² 及び R¹⁻¹ は、Ar であり；

Ar は、出現毎に、同じであるか又は異なっており、5~40の芳香環原子を有する芳香族又は芳香族複素環系であって、1以上の基R¹⁻³により置換されていてもよいものであり、但し、Ar は、それが、式(V)の芳香族骨格に直接的に結合している場合、トリアリールアミンとは異なる。

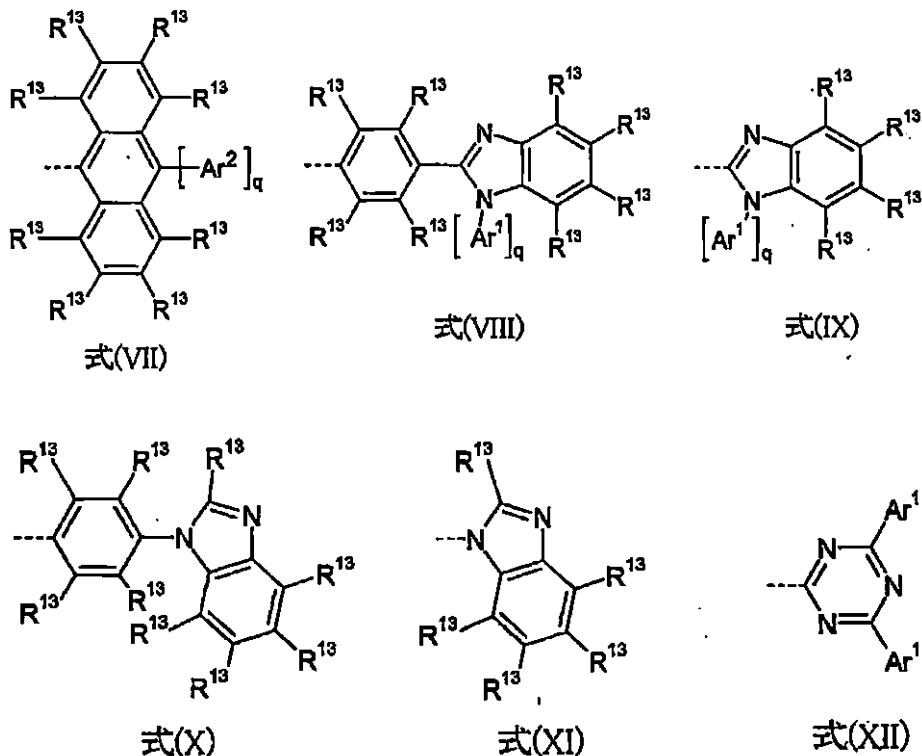
【請求項2】

請求項1に記載の化合物であって、Ar は、出現毎に、同じであるか又は異なっており、5~32の芳香環原子を有する芳香族又は芳香族複素環系であって、1以上の基R¹⁻³により置換されていてもよい化合物。

【請求項3】

請求項1または2に記載の化合物であって、当該基Ar は、式(VII)~(XII)の群より選択され、

【化 2】



破線の結合は、ベンゾ [c] フェナントレンユニットへの連結を示し、R¹⁻³ は、請求項 1 記載の意味を有し、更に：

A_r^1 は、5～16の芳香環原子を有するアリール又はヘテロアリール基であって、それらの各々は、1以上の基 R^1 ～ R^3 により置換されていてもよく；

Ar^2 は、出現毎に、同じであるか又は異なっていてもよく、5~20の芳香環原子を有するアリール若しくはヘテロアリール基であって、それらの各々は、1以上の基 R^{13} により置換されていてもよく；

q は、 1 である化合物。

【請求項4】

請求項 1 ~ 3 のいずれか 1 項に記載の化合物であって、R^{1~3} は、出現毎に、同じであるか又は異なっており、H、1~9 の炭素原子を有する脂肪族炭化水素、C_{6~10} アリール基及び 5~14 員のヘテロアリール基からなる群より選択され、当該脂肪族炭化水素基、アリール基及びヘテロアリール基のうちの 1 以上の H 原子は、F により置き換えられていてもよい化合物。

【請求項5】

請求項 1 ~ 4 のいずれか 1 項に記載の化合物の製造方法であって、反応性の遊離基により置換されているベンゾ [c] フェナントレンは、官能化した芳香族化合物に連結されることを特徴とする方法。

【請求項 6】

請求項 1 ~ 4 のいずれか 1 項に記載の化合物の電子デバイスにおける使用。

【請求項 7】

有機エレクトロルミネセンスデバイス（OLED）、有機電界効果トランジスタ（O-FET）、有機薄層トランジスタ（OTFT）、有機発光トランジスタ（OLET）、有機集積回路（O-IC）、有機太陽電池（OSC）、有機電界クエンチデバイス（OFQD）、発光電気化学セル（LEC）、有機レーザーダイオード（O-laser）及び有機光受容体からなる群より選択され、請求項1～4のいずれか1項に記載の少な

くとも 1 つの化合物を含んだ電子デバイス。

【請求項 8】

請求項 7 に記載の有機エレクトロルミネセンスデバイスであって、請求項 1 ~ 4 のいずれか 1 項に記載の化合物を、発光材料（ドーパント）、りん光若しくは蛍光ドーパントのためのホスト材料、正孔輸送材料、正孔注入材料又は電子輸送材料として使用したことを特徴とする有機エレクトロルミネセンスデバイス。